

ボーンペイント使用レポート

1. 使用ツール

1-1. 塗料

| 塗料 | 区分 | 状態 | 価格 | 希釈溶剤(公式希釈率) |
|-------------------|--------|------|------------|--|
| ボーンサーフェイサー | 下地 | 希釈済み | ¥638(税込) | ボーンペイントうすめ液スタンダード(10:0～2)、ボーンペイントリターダー(10:1) |
| アンダーブラックⅡ | 下地 | 希釈済み | ¥693(税込) | ボーンペイントうすめ液スタンダード(10:0～2) |
| ボーンペイントリターダー | 溶剤 | | ¥605(税込) | |
| ボーンペイントうすめ液スタンダード | 溶剤 | | ¥1210(税込) | |
| ボークロームⅡ | メッキ調塗料 | 希釈済み | ¥1,650(税込) | 希釈不可 |
| ボーンアルム | メッキ調塗料 | 希釈済み | ¥1,430(税込) | 希釈不可 |
| フィニッシュクリヤ | コート塗料 | 希釈済み | ¥990(税込) | 専用うすめ液:強化剤(10:0～5:0.7～1) |
| フィニッシュクリヤ専用うすめ液 | 溶剤 | | ¥770(税込) | |
| フィニッシュクリヤ専用強化剤 | 添加剤 | | ¥495(税込) | |
| MGP ラミネートゴールド | コート塗料 | 未希釈 | ¥935(税込) | ボーンペイントうすめ液スタンダード(10:8～10) |

※) 塗料の希釈率はデジタルスケールで計測するとよい。最小単位が 0.1g より小さいものを使用すると少量で希釈ができる。

1-2. その他ツール

- ゴッドハンド 神ヤス 6000、8000、10000
- スジボリ堂 システムコンパウンド（マイクロポリッシャーと組み合わせて使用するとよい）

2. 下地塗装

2-1. 使用塗料

- ボーンサーフェイサー
- ボーンペイントリターダー
- アンダーブラックⅡ
- ボーンペイントうすめ液スタンダード

2-2. 手順・方法

1. ボーンサーフェイサーを砂吹き 1 回後、ウェットで 1 回塗装。すこし粘度が高くウェットを狙いすぎると垂れる。
2. ボーンサーフェイサーは瓶の残量が少なくなると希釈が濃くなるので、サフ 10 に対して、うすめ液スタンダード 2～5、リターダー 1 の割合で希釈し直すといい。
3. 24 時間乾燥が良い。もっと早くてもいいかも。
4. ボーンサーフェイサーを研ぎ出する。神ヤス 8000→10000→システムコンパウンド 1→2→3 の順で研ぎ出すとよい。
5. アンダーブラックⅡをウェットで 1 回塗装。公式には 2 回塗装が推奨されているが、2 回目は垂れやすいのでボーンサーフェイサーの上に 1 回塗装がよさそう。希釈はしなくてもいいかも。
6. メッキ調塗装下地の場合、24 時間乾燥。（乾燥後アンダーブラックⅡを重ね塗りすると、クラックが入る危険性がある）

2-3 ポイント

- ウェット塗装は、面の中心から吹き始めて、外周に向かって渦を描くように吹くと垂れにくい。下地、コーティングともこの方法は有効。
- ウェット塗装で全開にして吹くと塗料に混入した埃を吐き出すことが多々ある。塗料をカップに注ぐ前に 100 均等で売っているお茶バックで濾すと埃の混入をある程度防げる。
- 埃が塗面に付着した場合、乾燥後、神ヤス 6000 番で埃を除去し、埃跡を部分塗装後、サフ研ぎ出しの要領で塗面を均せばリカバリができる。サフ層、アンダーブラック層ともこの方法は有効。

2-4 課題

- アンダーブラックⅡを研ぎ出した上に塗装をするとなぜかクラックが入る。中研ぎ後の 2 回目のアンダーブラックⅡ、本研ぎ後のラミネートゴールドで発生。
 - 中研ぎ後の 2 回目アンダーブラックⅡは、神ヤス 8000→10000 でクラックが消えるまで研いでシステムコンパウンド 1→2→3 で研ぎ出せばリカバリ可能。(実質、本研ぎ)
 - 本研ぎ後のラミネートゴールドでは、リターダーを入れて薄めるとクラックが発生しなくなるか??? (TODO:要検証)

3. メッキ調塗装

メッキ調塗料は、ボークロームⅡとボーンアルムを使用。両方とも同じ方法で塗装できた。

3-1. 使用塗料

- ボークロームⅡ
- ボーンアルム

3-2. 手順・方法

1. ボークロームⅡ、または、ボーンアルムを原液のまま、やや高压(1.5bar=0.15MPa)&塗布量少なめでさっと吹く。
2. 10～30 秒程度あける。
3. 再度同じように吹く。4 回目くらい重ねると十分に発色する。
4. 24 時間以上乾燥。

4. コーティング

フィニッシュクリアでコーティングする場合とラミネートゴールドでコーティングする場合で手順が異なる。

4-1. 使用塗料

- フィニッシュクリヤの場合
 - フィニッシュクリヤ
 - フィニッシュクリヤ専用うすめ液
 - フィニッシュクリヤ専用強化剤
- ラミネートゴールドの場合
 - MGP ラミネートゴールド
 - ボーンペイントうすめ液スタンダード

4-2. フィニッシュクリヤ 手順・方法

1. フィニッシュクリヤに強化剤を入れて、専用うすめ液で希釈する。比率はクリヤ:強化剤:うすめ液 = 10:1:8 程度が使いやすかった。
2. メッキ調塗装の上に、混ぜた塗料を1度、やや高圧(1.5bar=0.15MPa)&塗布量少なめでさっと吹く。
3. 2回目以降は同圧、ややウェットで吹く。きっちりウェットを狙わなくても塗料自体の粘度で自然に伸びていく。逆にウェットを狙いすぎると垂れるので注意。
4. 再度同じように吹く。3~4回目くり返して完了。
5. 24~48時間以上乾燥。強化剤を入れすぎると完全乾燥しにくいので、多めに乾燥時間(2日以上)を取ると良い。乾燥が不十分だとマスキングテープに負ける可能性あり。

4-3. MGP ラミネートゴールド 手順・方法

1. ボーンクローム II、ボーンアルムの上に塗装可能。
2. ラミネートゴールドをボーンペイントうすめ液スタンダードで希釈する。希釈度で色味が変わる。比率はゴールド:うすめ液 = 1:2 で見本に近い塗装ができる。
3. メッキ調塗装の上に、砂吹きで吹く。(一度曇るが、仕上げ吹きで艶が戻る。)
4. 塗料が届きにくい入り組んだ所やエッジを重点的に金がある程度発色するまで砂吹きする。面はうっすら塗料が乗っている程度砂吹きしてあればよい。
5. 仕上げに混ぜた塗料をややウェットで1回吹いて完了。濃度が薄く塗料が流れがちなので、厚塗りにならないように少し早く移動させると良い。(2回吹きすると塗料が流れやすいのでやらないほうがいい)
6. 2時間程度乾燥。